

一般発表 III

6 新潟市立R中学校における新たな歯科保健指導の取り組み

○天池千嘉子, 木暮ミカ, 平澤明美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 学校歯科健診, 歯科保健指導

はじめに

学校保健法施行法規則の一部改定により健康診断の考え方や方法が変更され、保健指導などの事後措置も充実させることとなった。本学は前身の歯友会歯科技術専門学校より、新潟市立R中学校において学校歯科保健活動を継続して取り組んできた。平成26年度、R中学校は「新潟県よい歯の学校」優秀校として表彰され一定の効果をあげてきた。学校歯科医が変更となった本年度のR中学校において実施している歯科保健活動について紹介する。

対象および方法

対象：新潟市立R中学校全校生徒（1年生：19名、2年生：24名、3年生：26名）計69名である。

方法：学校歯科医による歯・口腔の健康診断（以下：歯科健診）時に上下顎前歯部唇側の口腔内写真撮影を実施し、歯科健診結果、口腔内写真をもとに個別の歯科健診結果票を作成した。10月中旬に記名式で、お口に関するアンケート（口の中の悩み、歯磨き習慣など）を実施した。

歯科健診・口腔内写真・アンケート結果をもとに11月に学年毎に歯科保健指導を行った。

結果および考察

歯科健診の結果はう蝕有病者率が20.3%（25年度新潟市平均33.9%）、1人平均う蝕歯数0.47本（同0.9本）、歯肉有所見者率（G 0, G）23.2%（同21.2%）で歯列有所見率39.1%（同16.2%）であった。

お口に関するアンケート結果では、お口の中の悩みが「ある」と回答したのは、1年生が21%、2年生が36%、3年生が54%で学年があがるにつれ、増加した。内容は全学年で歯並びが12名、歯の色・着色が9名、歯肉の腫れが4名、口の乾きが1名となった。これは思春期に入り外見を気にするようになった結果と思われる。

さらにブラッシング習慣において各学年朝食、昼食後のブラッシング率が高く、夕食後、就寝前のブラッシング率が低かったのも、外見を気にし、身だしなみとして磨いていた結果と考えられる。補助清掃用具使用状況においては1年生が5%、2年生が23%、3年生が12%の者が使用していると回答した。

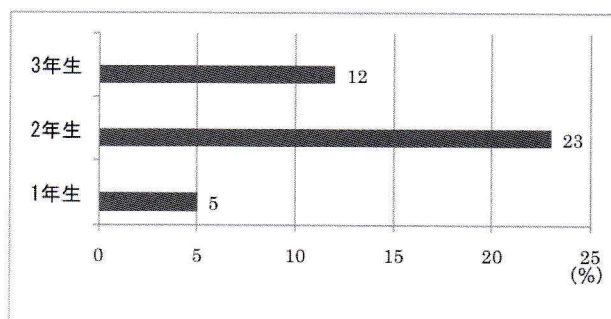


図1 補助清掃用具使用状況

まとめ

歯科健診結果の集計・分析、事前アンケートをとることにより、学校・学年の状態を把握し歯科保健指導を行ったことは有効だった。

個々の口腔内写真や歯科健診票を活用することによって歯・口腔の理解を深めることができた。

正しいセルフケアについての知識と方法を習得し口腔清掃習慣や生活習慣に気を配る保健指導を行うことで中学生の保健行動の変容の動機に繋がることから、今後も継続的・体系的に歯科保健指導などを実施していくことが重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 森下真行他, 高等学校における学校歯科保健活動に関する研究, 口腔衛生会誌50: 231-235, 2000